

# 第 15 回定例教育委員会 会議録

開催月日 平成31年2月13日（水）  
開催時間 午後 3 時 00 分から午後 4 時 30 分まで  
開催場所 教育委員会室  
出席委員 教育長 市川 満  
教育長職務代理者 野田 清紀  
教育長職務代理者 武者 稚枝子  
委員 加藤 正芳、佐藤 喜美子

出席職員 教 育 次 長 小島 良一  
教 育 監 奥田 正治  
教 育 監 青柳 達也  
理 事 齊木 邦彦  
学力向上対策監 佐野 修  
次長（総務課長） 塩野 開  
福利給与課長 （代 総括課長補佐 曾根 昌久）  
学校施設課長 後藤 宏  
義務教育課長 嶋崎 修  
高校教育課長 廣瀬 浩次  
高校改革・特別支援教育課長 染谷 光一  
社会教育課長 保坂 哲也  
スポーツ健康課長 前島 齊  
学術文化財課長 百瀬 友輝  
企画調整主幹 雨宮 邦仁  
総務課総括課長補佐 古屋 登士匡  
政策企画監（総務課課長補佐） 武井 俊人  
総務課課長補佐 若月 衛  
総務課課長補佐 望月 勝一  
総 務 課 主 査 河野 奈美  
学術文化財課 課長補佐 保坂 和博  
主 幹 尾形 哲哉  
義務教育課 主幹・管理主事 玉島 正隆

傍 聴 人 2 名

報 道 1 名

会 議 要 旨

## 〔 教育長開会宣言 〕

教育長から三塚委員が都合により会議を欠席する旨の届け出があったとの報告があった。  
報告事項（10）、その他報告（30）については、個人情報に関することであるため非公開とした旨が教育長から発言され、出席委員全員が了承のうえ非公開とした。

## 1 議 案

第 37 号 山梨県立青少年センター設置及び管理条例等の一部を改正する条例

〔説明〕 総務課

野田委員 これは24年8月時点で8パーから10パーと決定されていたからという意味か。

塩野課長 はい。

野田委員 また延期になったらどうなるのか。今までも延期になった。

加藤委員 決定じゃないからね。

塩野 課長 今の時点で10月1日と想定をしているので。

野田 委員 その場合は延期になる。

塩野 課長 そうということがあれば。

市川教育長 これはあくまでも消費税に係るものだから、勝手にできるものでもない。

塩野 課長 当然、なればということ。

加藤 委員 基本的には消費税で玉突きするわけで、当然値上がりは事実なので、追従するしかない。

【原案どおり決定】

第 38 号 教育委員会の活動状況報告書について  
〔説明〕 総務課

加藤 委員 内部評価結果については、大半が見直し「有」と書いてあるが、この評価というのは、やっていることがみんな値しないということなのか。

塩野 課長 ここでいう見直しの必要性が有るか無いかとは、無いは、想定以上の活動量あるいは成果をあげていて、継続して同じようやっていけばいいというのが空欄の部分。むしろ、有りは、予定どおりの活動量があるが、そうはいつでも100パーセントに達していないとか、まだ若干の余地があるということで、執行方法とか、大々的な改正というわけではないが、工夫の余地があるというような意味合いで「有」としている。

加藤 委員 もう一つ、それぞれの事業名について予算があるが、見直し有り無しは、予算に対してのことか。

塩野 課長 この予算とは、当初予算に計上した予算額で、それに対して、活動量・成果は、実際に数値目標を、例えば、事業するにあたって何人ぐらいに来ていただくとか、アンケートを取って「満足である」とか、「役に立った」とか、高評価が何パーセント以上の方というような、そういった目標を設定をしているので、それと比較して、活動量はどうかであったかと、あくまでも予算に対してその執行額が何パーセントであったかということとは別。

野田 委員 この金額に見合うものだったのか、それとも企画が妥当だったのか、それとも両方が問題あるから問題有りとなっているのかと、いうことを聞いている。

塩野 課長 予算に対して、実際に活動をして、それが当初の想定をかなり下回っているということであれば、来年度の予算から見直ししていこうということであり、当初予算に計上されているということ自体は、その事業自体は行っていく必要があると予算査定段階では認められたもの。それを実際に執行してどうだったかというのを自主的に評価して、そして来年度の予算に、その見直し結果を事業執行にあたって改善をしていくということを狙いとしている。

- 市川教育長 基本的にはPDC Aで回していく。予算があつて事業執行となるが、おっしゃるとおり、予算に合ったものができていない場合は予算の縮小ということもあり、予算に限らず方法を変えていく場合もある。必ずしもお金にだけにリンクするのではないが、当然お金にリンクするものもあるので、そういったものをまず自分たちで改善しましょうと検証した上で、今度は予算というところで財政課の査定にリンクしていくところ。
- 野田委員 包括的に「有」と書くのではなく、比較なのか、予算の高なのか、もっと低予算でできるのではないかとか。
- 市川教育長 そういうものもある。
- 野田委員 だから分かったほうが良いと思う。
- 塩野課長 予定した活動量が得られないのあれば、その事業自体をそもそもどうするか、やめたほうがいいのか、ということもこの結果から判断するし、さらに拡充したほうが良いということであれば予算額の増といった改善することもある。  
今回、評価としては確定しているが、この評価を踏まえて、来年度、あるいは事業執行方法ということで、31年度の事業内容に反映されていく。
- 武者委員 総合教育会議の中でも、県内のこういった施設に何か問題があるかと話し合ったことがあったが、この評価にもある、周知不足について何とかした方が良くとか、各施設とも距離があるので、そこを周遊できるような周遊チケットみたいなものとか、巡回バスをつくったらどうかとか、いろいろ案が出たと思うが、その意見が反映された結果なのか。活動量は単純に何回展示を変えたかとか、何日稼働したかなどで評価ができ、成果ということで見るとそんなに変わらないと思う。アドバイザーの人の意見や、私たちの意見の、PRということに対しては、各学校に展示する、学校の先生がPRする、などの企画を作るとか、そういう事業のために予算を計上しないと、この結果だけ見て、縮小とか施設をなくすとかになると、先細りになっちゃうのかと思う。この話も、毎回出て、この回答を見て、うーんと言うのもあまり進展がないと思うが、そこはどうか。以前の総合教育会議等が出た意見が何か反映されたのか。
- 塩野課長 これは30年度に予算化されて、執行された事業について評価をしている。おっしゃるように、改善したほうが良いんじゃないかという意見については、できるだけそういった意見や、アンケートなんかも取り、利用者の声を踏まえて、それに沿うような形で新年度の予算に反映させていけるように努力している。
- 武者委員 実際、行ってみるとすごくいい展示がたくさんあって、もったいないと思った。ぜひそのPRに予算を投じていただけると良いと思う。一回でも目にすると、また行きたくなるというのが心理で、特に学生なんかは、面白いのであれば、そこから広がると思うので、ぜひがんばって予算を付けていただければと思った。
- 塩野課長 企画展などは、各学校にも情報を、生徒さんを通じて周知をしている。

- 加藤委員 21項目のうち、5項目は良いということで、あとは全部見直しが必要ということであるが、どうせ評価するなら何が悪いとかということを親切に付け加えてくれたほうが分かりやすい。
- 塩野課長 この評価をするにあたっては、結果の一覧という形でまとめてしまっている。それぞれの事業ごとにもっと詳細に分析したものがある。
- 野田委員 これは予算なのか、企画なのかという問題もあるし、もう一つのこれ見直し必要有りというのは質的な問題でどうなのかという評価もやっぱり見えてこないとおかしいと思う。  
もう一つ、周知について、底辺拡大するのなら、県で何とか友の会みたいなのを作って、歴史とか美術とかの年会費を取ってでも、チケットは半額になるみたいな、そういうのをベースにやっていると、少しずつでも広がって、ミレーの勉強会、文学の勉強会などと派生的に広がって行くんじゃないのかなという気がする。芸術と趣味の会とか、そういうのを何か作ったらどうか。
- 塩野課長 美術館なんかは年間パスポートみたいなことをやっている所がある。博物館とか美術館の連携といったことについて検討しているので、参考とさせていただきたい。
- 佐藤委員 一番気になったのが、子どもの読書活動推進事業が活動量も成果もC評価のところ。どんな事業だったのか見えないので、改善案というのはいえないが、今、子どもたちは上級学校になればなるほど読書はしていないし、人間の読書脳って15歳で決まるというので、義務教育の段階での読書活動推進というのはとても大事だと思うので、もう少し力を入れていただきたいというのが一つ。  
青少年問題協議会費の事業だが、問題行動を抱えている子どもさん達が多いという状況の中で、情報の一元化という話があったと思うが、やるとなれば誰がどこでどういうふうになら中心になってやるのかということで、一歩前に前進できるような、そういう予算取りや企画内容を考えていただければ非常に有効と思った。
- 加藤委員 Cということは、やめろというようなものだね。
- 塩野課長 C評価というのは、活動量が40パーセント以上80パーセント未満のもの。あまり低いものであればその事業自体そもそもどうなのかということにもなる。
- 加藤委員 総予算の中でどういう事業をやるかという、その仕分けが重要だと思うね。やった結果いいとか悪いとかという議論よりは、絶対必要だとか、このぐらいで治めれば良いとかの区分をしてくれれば、あとの人はやりやすい。やり終わったあと、いいとか悪いとか、75パーセントまで見直しをしろと言われているならば、その先が大事なことだと思う。

市川教育長 この行政評価制度が始まった発端は、役所がする事業というのは計画して、やったらやりっぱなしじゃないかというのがあって、成果が達成しているのかどうかという、その事後検証がされているのかというのがこの始まりだった。予算を掛けたものがそれなりに説明ができるようなものになっているかどうかというのが行政評価という制度の発端だったものなので、二つ、大きくは単なる手段だけでなく、目的、目標を達成しているかどうかというものが一つと、ある程度指標としてちゃんと設けて、なるべく客観的に評価しましょうというのがこの行政評価の仕組み。というがあるので、どちらかというところこの制度自体は実際予算を立てて事業を作ったものが、本当に成果、当初の目的どおりやれていますかというものを全部オープンにして、県民の皆さんに明らかにしていくというところがこの評価の仕組み。それを踏まえて、じゃあ次の年度の事業はどうしていきましょうかという形のPDCAへ回していくという形のものなので、いろんな見方があるが、そういうものだと。従ってこれは予算の話だけではなくて、いろんな仕方とかいうことについてもあるんですということですね。

野田委員 PDCAより僕はPDCFというような言い方のほうが正しいと思うけどね。フィードバック。要するに現場にこれがおかしいんじゃないかと。チェックしたあとでこういう改善策を提示するみたいなやり方だと思うんだけどね。アクションというよりもね。

市川教育長 いずれにしても、改善策についてはこの中にはいっている。

塩野課長 はい。

#### 【原案どおり決定】

#### 第 39 号 山梨県指定文化財の指定について 〔説明〕 学術文化財課

#### 第 40 号 山梨県指定文化財の指定について 〔説明〕 学術文化財課

野田委員 浅間神社の中にある三神像については、平成17年の時に国の重要文化財に指定されているが、建物はどうしてだめだったのか。仏像は高い評価なのに、建物はそんなに評価されていない。

百瀬課長 建物は、当時は、優先的には指定になる部類のものではなかったという評価がされた。

野田委員 年代的には同じなのかな、三神像と。

百瀬課長 三神像はもっと古い。鎌倉くらい。

武者委員 感想的な話になってしまうが、非常に貴重だというのがよく分かった。ちゃんと祀ってあることや、博物館に収められていることが、当たり前のように思ってしまうが、通常は、盗掘や売ってしまうなどが、普通なのかと。そう考えると、貴重に、畏怖の念を持ってその住民たちがちゃんと守って、またそこを先導する中心になる人たちがちゃんとそれを実行に移した。その結果が今大事に残っているということだと思う。ぜひこういった文化財として残していただきたいと思った。

- 加藤委員 指定することは非常にいいことだと思うが、指定することによってどういう効力が発生するのか。
- 百瀬課長 やはり県指定ということで、例えば下の郷民擁護の碑なんかは山梨県で所有しているので、山梨県での活用をしていくわけだが、浅間神社のほうは、本寺院は法人が所有しているので、何かあった時には県の補助金を使っての修理ができるとかあるが、やっぱり指定されるということでこの文化財が保護されていくというところが一番大事ではないかと思っている。
- 加藤委員 そういう認識が地域にも持てるということか。良いことではないか。
- 野田委員 そうだね。大事にしなければ。

【原案どおり決定】

- 2 報告事項  
(10) 教師力アップ研修について  
( 非公開 )  
[説明] 義務教育課

【了知】

- 3 その他報告  
(29) 「新やまなしの教育振興プラン」の目標となる指標の達成状況について  
[説明] 総務課

- 野田委員 進捗率の出し方は？
- 塩野課長 30年度の目標値から、計画を策定した時の基準にした平成24年度の現況値を引いたものを分母として、29年度の実績値から計画を策定した時の現況値、それを差し引いて、これを分子としてパーセントを出すので、かなり大きい進捗率、200を超えるようなのがあったりとか、マイナスなものも生じている。
- 野田委員 なぜ24年度なのか。
- 塩野課長 25年度に策定をしている。その直近の確定数値が24年度のもの。
- 野田委員 だいぶ違う。比較対象になるのか。
- 加藤委員 24を100として見ているということか。
- 塩野課長 そこを基準にしている。
- 市川教育長 朝食を食べる割合というのは、厳しい状況。

- 武者委員 貧血の子が多い。朝、女の子は起きれないという相談が多いので、とにかく、流動的なものでいいからまず食べようと指導する。
- 市川教育長 親が食べないのか。
- 加藤委員 本当、朝食を食べないというのはだめらしいね。
- 前島課長 進捗率がマイナスになっているが、状況とすると、小学生、中学生ぐらいの親が朝食を食べなかった世代ということが一つ。また、スマートフォンとかゲームなどかなり夜遅くまでやっている、朝早く起きられない、そうすると朝、ごはんを食べていけないなど、主にそういった理由によって朝食をなかなか取ることができないと分析している。
- 野田委員 今スマホの話が出たけど、スマホによって健康を害するとか脳が萎縮するという調査もあるみたいだね。だからそういうのをやめて朝飯食いましょうみたいな、キャンペーンなんかをやるのもいいと思う。
- 市川教育長 スマホ、携帯について指導はあるのか。
- 嶋崎課長 文科省から資料が出ている。それを使って研修会等で共通理解を図るようなことをしている。近年、スマホの問題が増えてきているので、特に重点的に扱っている。
- 佐藤委員 家庭でしていただかないと学校では限界があるかと思う。
- 加藤委員 基本方針の1、世界に通じ、社会を生き抜く力の育成というのが、非常に進捗度が大きい、特にどういうところがよいのか。
- 塩野課長 相対的に見て、進捗率が100パーセントとなっている項目が幾つかあるので、全体的に高いという傾向にある。
- 加藤委員 人間的に対応力という部分を持たせないと、グローバルというか、社会で生き抜く力というのにつながらないと思う。その辺を、生き抜けるかどうかというのを見る指標にしていけないといけないんじゃないかと思うんだけど。言われたことをやっていくということが本当に生き抜けることになるのかということの評価しないといけないのではないかな。
- 佐藤委員 そうするのは難しく、測りきれない。
- 塩野課長 数値化できる、数値化されているようなもので比較をするということがある。
- 加藤委員 尺度が分からない。難しいということだよな。

【 了 知 】

- (30) 平成30年「やまなしスポーツ賞」について  
( 非公開 )  
[説明] スポーツ健康課

【 了 知 】

[ 教育長閉会宣言 ]

以 上